

全国聴覚障害者情報提供施設協議会 総会・大会 参加報告

6月13日～14日、みやぎハートフルセンター（宮城県）において全国聴覚障害者情報提供施設協議会（以下、全聴情協）理事会、施設長会議、総会及び第20回（通算第32回）全国聴覚障害者情報提供施設大会が開催され、当センターより施設長の藤平が参加した。

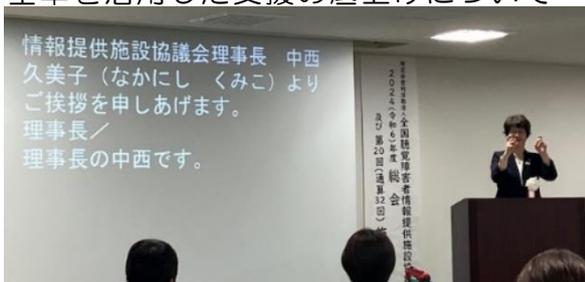
総会・大会は輪番の開催と決まっており、今年度は第1ブロック（北海道・東北）が当番であった。そのため伊達政宗公で有名な仙台市において開催された。

まず、施設長会議が行われ、全聴情協が1993年に設立されたが、時代の流れとともに事務局体制や在り方に対する考えが変わってきており、京都のみ担うことが難しくなってきた。そのことから、全聴情協の継続のために事務局体制について話し合われた。

総会では2023年度事業報告・決算、2024年度事業計画・予算に関して審議。その時に、第2ブロック（北信越）においても、2024年度の活動計画書では『施設長研修会・会議（富山）』『コーディネーター研修会（福井）』『ソフト制作担当者研修会（福井）』において実施予定といった内容が了承された。

また役員改選では、今年度は監事のみ選挙を実施。監事の場合は、来年度に総会・大会が開催場所の施設長が選出されるために、中橋道紀氏（富山）が当選した。

施設大会では、30分程度の式典の後に、シンポジウムがありました。「評価基準を活用した支援の底上げについて



（調査・研究事業に基づいて）」をテーマに、パネラーとして厚生労働省自立支援振興室・吉元信治室長補佐、全日本ろうあ連盟・石橋大吾理事長、全聴情協・楫（かじ）希代見理事等でした。厚労省の吉元氏から、「情提の中で制作した映像の配信方法」は情提のホームページが多数ではあったが、能登半島地震の際に石川県聴覚障害者センター（石川県聴覚障害者災害救援対策本部）が発災直後からYouTubeやLINEといったツールを駆使し、注意喚起、安否確認、各種情報発信等で活用したことを注視したいとのこと。これが情提としてあるべき情報提供の在り方であると評価していた。「相談事業」において、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に、メール（チャットを含む）やテレビ電話による相談など、ICTを活用した手法の割合も増えてきていることに着目していると。「遠隔手話通訳」では平時では訪問をメインとしていたが、災害時は訪問では限界が生じるため、テレビ電話を以て情報が集められたことから、遠隔システムの有効性が認められている。利用の幅が広がるメリットがある一方で、通信環境に大きく左右されやすい、対面と同等の情報保障ができるか等の課題があるとしている。遠隔要約筆記は、実施している情提が15施設にとどまり、遠隔手話通訳と比較すると普及が進んでいない。

来年度の同施設大会は、富山県富山市で開催する予定です。



手話通訳士試験対策 実技特訓講座 開講

聞こえない、聞こえにくい方の手話通訳のニーズ増加に伴い、石川県も「手話通訳士」の人材不足が課題です。9月29日（日）の実技試験に向け、7月14日（日）に初回講座を行いました。当日は宮澤典子氏をお招きし【読み取り】【聞き取り】についてご指導いただきました。提出課題を元に受講生一人ひとりに丁寧な指導・アドバイスをいただき、受講生も真剣な表情で取り組んでいました。この講座は全3回行われ、次回講座【総仕上げ】はオンラインにてご指導いただきます。



手話通訳者全国統一試験対策 特訓講座 開講

石川県登録手話通訳者試験（手話通訳者全国統一試験）受験予定の方を対象にした対策講座が開講しました。平日コース12名、休日コース16名、計28名の申込がありました。各コースともに全12回実施され、11月上旬まで行われます。初回は7月4日に読み取り講座（平日コース）が行われ、今後【読み取り】【聞き取り】【場面通訳】について試験に向けた効果的な学習方法や自己課題、手話通訳技術などを学びます。



金沢地方気象台からのお知らせ

「津波フラッグ」は大津波警報、津波警報、津波注意報（以下、「津波警報等」という）が発表されたことをお知らせする旗です。



津波フラッグは、長方形を4つにわけた赤白もよりの旗です。

津波フラッグは避難の合図

海から離れて高いところへ!



いつ使われる?

津波警報などの発表時

※大津波警報・津波警報・津波注意報

どこで使われる?

海水浴場など

波音や風で音が聞き取りづらいため、旗で視覚的に伝達

見かけたら?

高いところへにげて!

すぐに海から離れ、高台や津波避難タワーなどへ避難を

監修：気象庁 制作：Yahoo!ニュース

令和6年度 石川県要約筆記者養成講座 前期課程 受講生募集

要約筆記を初めて学ぶ方も受講できます。要約筆記者を目指してみませんか？

- 目的 要約筆記を行う上においての資格、条件を備えた要約筆記者の養成
- 開催日 令和6年9月7日(土)～令和7年1月25日(土)
*毎週土曜日 概ね13時～17時(午前開始の日あり、他行事により休講あり)
- 会場 石川県社会福祉会館
- 受講料 無料。ただし教材費が別途必要です。講座初日にお支払いいただきます。
- 申込方法 受講申込書に必要事項を記入し県聴覚障害者センターまで郵送・持参ください。
書類は8月1日(木)より下記Webサイトからダウンロードできます。
- 提出書類 受講申込書、教材申込書、返信用封筒(長3封筒に住所・氏名を明記し84円分の切手を貼付)
- 申込締切 8月23日(金)厳守(当日消印有効)
- 申込先 社会福祉法人石川県聴覚障害者協会 要約筆記者養成講座担当 宛
〒920-0964 石川県本多町3丁目1番10号 石川県社会福祉会館内
*詳細は下記「石川県聴覚障害者センター」Webサイトをご覧ください。
<https://www.deaf.-ishikawa.or.jp/>

人事のお知らせ

6月末をもって、手話通訳者養成事業を主に担当された彦谷いづみさんと、被災者支援として今年1月より勤務された坂本美穂さん、倉本文代さん、小林宏美さんが退職されました。

退職のあいさつ

在職中はたくさんの方に助けていただき、本当にありがとうございました。情報提供施設でお仕事させていただいたことは、私にとってかけがえのない時間でした。心より感謝申し上げます。【彦谷いづみ】

何をしたらよいのか、手探りの数カ月でしたが、多くの方々と共にお仕事ができたと感謝いたします。これからも復興に向けて活動していきたいです。【小林宏美】

約半年間、対策本部のサポートとして微力ながら支援の一端を担わせて頂き、ありがとうございました。避難された方の中には2007年の能登沖地震で関わった方も数人いられ、まずは皆さんが無事であったことに安堵したことが昨日のことのようです。支え合うことの大切さを、サポートの仕事を通して改めて感じました。これからも、能登の復興をみんなで支えていきたいです。

【倉本文代】

短期間でしたが、たくさんの方と関わることが出来ました。被災者の方々への支援はこれからも続きます。自分たちに出来ることは何かを考え、今後も活動したいと思います。【坂本美穂】





地域活動支援センターあさがおハウス

あさがおハウスだより

令和6年5月から7月の活動の様子です。

5月20日（月）今年3月にオープンしたトレインパーク白山を見学しました。1階は新幹線の魅力満載のフロアでした。また、展望室から眺める新幹線の走行は迫力満点でした。

6月24日（月）小松航空プラザ・木場潟さとするべを見学しました。低コストでトマトを夏越し長期栽培する装置がつけられた建物内を見学しました。

7月10日（水）白山市の多川家資料館で多くの展示物を見学した後、利用者のご自宅でお抹茶をいただいできました。初めて茶道に触れた方々は興味津々でした。



6月26日（水）朝顔の講習会を開催して苗植えから学びました。現在、庭では手作りの台上にあさがおの鉢を並べ水やりをしています。夏野菜は、採れたてを味わっています。そして、春に大倉さんからいただいたかぼちゃの苗を初めて育てています。



7月3日（水）七夕飾りを作りました。折り紙の講師をお招きして、珍しい2つ合わせの星などの折り方を学びました。バラエティーに富んだ飾りが完成し飾りつけを楽しみました。

